

2018-2019 年度のための地区研修・協議会報告

地区研修・協議会 実行委員会 幹事 澤村剛士

4月7日に開催した地区研修・協議会では、大阪南RCより74名の多数の出席をいただき成功裡に終える事ができたことに心より感謝を申し上げます。

<地区研修・協議会の意義>

地区研修・協議会の目的は、第一に2018-19年度のRI方針の確認と、それを受けた山本ガバナー方針を理解する場であること。第二にガバナー方針を受けて、当該年度の地区内の各クラブおよび地区の委員会が方向性を一にして、一年を通して方針に沿った活動がなされるための意識の共有が図れる場、と私たちは捉えました。

また、ガバナー輩出クラブがホストとして行う最初の事業であり、さらにガバナー年度の一年を通して大阪南クラブがどのような形で関わることが注目される、ある意味試金石となる事業との認識のなか緊張感を持って運営に当たりました。

<実行委員会メンバー>

実行委員長；藤井眞澄会員を筆頭に、実行副委員長に下條泰利会員（本会議；司会）、SAAに熊田昭夫会員（シナリオ作成・本会議タイムキーパー）、会場設営運営委員長に松山大祐会員、副委員長に伊藤勝彦会員（国際会議場折衝・本会議スケジュール管理・各部署マニュアル作成）、部門別協議会委員長に樋口喜久男会員（部門別協議会マニュアル作成）、幹事；澤村剛士のメンバーで実行委員会を組織しました。

H29年6月8日の大阪東RCとの引き継ぎ会を皮切りに、国際会議場およびガバナー事務所などの打ち合わせ、またクラブ内説明会や地区事前説明会を含め、全10回の実行委員会を実施し、4月7日の事業当日に備えました。

<変革へのミッション>

- ① 各クラブの参加費用を下げることはできないか。

地区研修協議会は、各クラブの会長・幹事・各部門担当理事・地区委員会担当者が出席対象者であり、各クラブからの拠出で賄われています。そのクラブ負担金を、少しでも下げることが検討せよとの依頼です。

② 会場の見直しはできないか。

費用負担を軽減するためには、会場の見直しも検討課題であるとの意見です。以前は、本会議の会場はメインホールを使用していました。しかし、参加人数が600名程度なので空席が目立ち費用だけがかさむのもったいないとの意見です。

③ 部門別協議会を減らす。

今迄、部門別協議会は10部門で行われておりましたが、7部門に減らすというのです。それは、会議運営の活性化と地区のクラブ委員長会議が年2回さらに部門別協議会での会長部門会議の合わせて3回の会合を、今回より部門別協議会に一部集約することで年2回とし、出席者の時間的負担を軽減しようとの試みです。

①は10名以下のクラブ1万円、29名以下および30名以上のクラブには各々2万円の減額を実現しました。②は、国際会議場へ足を運び現場確認のうえ変更可能と判断をしました。この会場変更は費用面には大きく貢献したのですが、設営面に関しては初めての試みのため全てを一から見直すことになりました。③は地区の各委員会の準備に依るところが多かったのですが、議論の充実を図るため会議時間の延長にも対応をしました。

<クラブの伝統と友情>

地区大会当日の出席者は、ホストクラブを含む合計913名となり、当初予定の600名を大幅に上回る参加となりました。本会議場は満席となり、大阪南RCの多数の皆様には立ち見での対応を強いることになるほどでした。さらに、年配の会員の方々も自ら案内役を引き受けて下さるなど臨機応変の対応をいただき、頭の下がる思いでした。

この事業を成功へ導いた要因は、会員一人一人のガバナーを支えようとするお気持ちと、いざというときは皆が一致して行動を起こす、南クラブの伝統の力と友情に他ならないと感激した次第です。

次年度のバリー・ラシンRI会長のテーマは「インスピレーションになろう BE THE INSPIRATION」です。INSPIRATIONには、鼓舞すること(人)などの意味がありますが、山本GEは敢て地区ガバナーのテーマは設定せず、「インスピレーションになろう」の考えをもとに地区活動を展開するとのことでした。これから始まる、ガバナー年度が充実したものとなり、新たな伝統の一里塚が築かれることを祈念して報告いたします。